

平成28年度 本校における学校評価の結果

本年度の課題		聾学校の専門性を生かした取組を進め、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、生きる力を育む。	
本年度の重点目標		① 健やかな心身を育む活動を推進する。 ② 体験活動を通して幼児児童生徒のキャリア意識を育てる。 ③ 発達段階における一人一人にニーズに合った支援を充実し、日本語力とコミュニケーション力を育む。	
項目	重点目標	具体的方策	評価結果
① 心 身 の 健 康	食に関する正しい知識と望ましい食習慣の習得を図る。	・幼稚部では、合同朝会やトライアングル教室等で食に関する講話を実施する。	○幼稚部の取組 ・給食や授業、合同朝会の際に食に関する内容を積極的に取り入れ、幼児の興味・関心を深めた。 ・保護者と連携を図りながら、幼児のよりよい食習慣の形成を図った。そのために、親子給食会を実施したり、トライアングル教室で「朝食」「間食」「行事食」についての講話を実施したりした。 ○主な変容 ・給食を残さず全部食べることを目標にする子が増えた。 ・いろいろな食材の名前を覚えたり、苦手な食べ物にも興味をもつようになったりした。 ・「あじのはなし」をした後、「あまい」や「すっぱい」を表現するようになった。 ・親子給食に参加された保護者の感想として、「給食は栄養バランスがよく、ありがたい」「いつもは食べない子の食べる姿を見て感動した」「家でももっと褒めようと思った」などが挙げられた。 ・トライアングル教室に参加された保護者の感想として、「朝食におかずを加えたいと思った」「HPのレシピを参考にしたい」「食生活を見直すいい機会になった」「季節の物や行事食を取り入れようと思う」などが挙げられた。
		・小学部、中学部では、食に関する授業を学年ごとに年間1～2回実施する。	○小学部・中学部の取組 ・食に関する正しい知識の定着を図るため、児童の実態に応じた指導内容を設定した。 ・保健委員会が中心になって、残飯調査を行った。 ・月行事予定のお知らせでほぼ毎月、給食についての取組を紹介した。 ・各クラスで朝の会や給食時に献立や給食目標を取り上げ、知識や興味・関心を随時広げた。 ・保護者に学校給食の実情を認識していただくために、小学部1年生保護者を対象に学校給食試食会を実施した。 ・小学部では、給食週間に合わせて「わが家のおすすめメニュー」や「お気に入りの給食」などについてカードにまとめ伝え合う活動を行った。 ○主な変容 ・授業で扱った食べ物について興味・関心を示すようになり、給食時に学習した食材などを意識して探す姿が見られた。 ・以前よりも学習内容（食べ物の働き）を意識して給食を食べるようになった。 ・「調理員さんに感謝して、食べ残しを減らしましょう」と保健委員会が全校に向けて発信した。残飯の量をグラフに示し、子どもたちが減らしていこうと意識できた。 ・学校給食試食会に参加された保護者の感想として、「野菜がたくさん入っていてよい」「メニューが豊富。おいしかった」「子どもがたくさん食べていた」などが挙げられた。
		・中学部、高等部では、保健委員会で食に関する正しい知識と望ましい食習慣についてまとめ発表する。	・小学部、中学部だけでなく、幼稚部と高等部3年生でも食に関する授業を実施するなど、取組を進める中で次第に全校的な取組へと広げることができた。 ○中学部、高等部の取組 ・保健委員会が中心になり、7月と12月に中学部、高等部の全生徒を対象にして食習慣についてのアンケート調査「食べ物の好き嫌い」を実施した。2回のアンケート結果を比較した。 ・1月の給食週間中に各部集会で、まとめ発表を実施した。 ○主な変容 ・アンケートの実施後、意識が向上し、中学部では給食の残飯を減らそうとする姿が見られた。高等部においては運動前の食事を意識する生徒が増えた。 ・運動前後の食事に注意し、部活動の大会時などに意識する生徒もいた。

① 心 身 の 健 康	食に関する正しい知識と望ましい食習慣の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と運動を関連させ、体育の授業や部活動を通して基礎体力の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学部、高等部の取組 ・体育の授業において、補強運動を継続的に行った。 ・部活動において、基礎体力の向上を図る内容を取り入れて継続的に実施する。(陸上競技部では、体幹トレーニング、筋力トレーニング、30分ジョギング、サーキットトレーニング、ゲームを取り入れた持久的な運動などを、練習後半や朝練習、雨天時などに積極的に取り入れ、体力の向上を図った) ・基礎体力の向上と食事の関連について、部活動顧問から適宜伝えた。 ○主な変容 ・腹筋、背筋、腕立て伏せを20回ずつ、補強運動として続けて行うことで、基礎体力が向上する生徒、定着した生徒が見られた。 ・どの部活動においても継続的に実施することで、体力の向上が見られた。
	毎月発行している給食だよりを活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月発行している給食だよりを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体の取組 ・定期的に情報を発信し、幼児児童生徒及び保護者への意識の定着を図った。 ・給食だよりに「連載 スポーツと食事」を掲載した。(5月から8月の間に8回) ・給食時に、担任から給食だよりの内容を伝え、生徒の意識を高めた。 ・7月の小学部保護者会と8月の中学部保護者会において、栄養教諭による食育についての講話を行った。 ・取組の様子と併せて、学習発表会の作品展会場に掲示した。 ○主な変容 ・子どもが考えた献立を出したときは、話題が盛り上がった。 ・繰り返し話題にしたり、給食の話題に触れる機会を多く用意したりすることで、少しずつ確実に食に関する知識を増やすことができた。 ・自分で調理をしたり、家で話題にしたりして、生活につなげられる子もいた。 ・給食時に話題にすると、みんなが話に参加できるので、多くの子どもが興味・関心をもっていることが分かった。 ・給食だよりに目を通してから担任の話を聞いたり、再度読み直して理解を深めようとしたりするなど、自主的に取り組む生徒の姿が見られた。
	他の具体的方策	<ul style="list-style-type: none"> ・他の具体的方策 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体の取組 ・HPに給食の献立を定期的(月に2回程度)に掲載した。 ・給食時に栄養教諭が各教室を回って「食に関するクイズ」を実施し、幼児児童生徒の食に関する興味・関心や正しい知識の定着を図った。 ○主な変容 ・「食に関するクイズ」を楽しみにしている様子が見られた。写真や吹き出しなどのイラストを工夫してクイズを行ったので、どの生徒にも分かりやすく、食材や栄養などについての知識を深めることができた。 ○小学部、中学部の取組 ・小学部保護者会(7月15日)、中学部保護者会(8月1日)で栄養教諭が保護者を対象に講話を行った。
	<p>○アンケートの結果(4段階の回答のうち、上位2段階の合計)</p> <p>児童生徒アンケート(好き嫌い、朝食の摂取)…92%</p> <p>生徒アンケート(健康を意識した食事、体力の向上)…76%</p> <p>職員アンケート…85%、保護者アンケート…97%</p>		<p>達成の指標</p> <p>平均 87.5%</p>

※ 各アンケートについて、各項目の実施状況・達成状況の上位2段階の評価「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計を%で算出し、さらに平均を取った。児童生徒アンケートについては、小学部5年生以上が回答。

② キ ャ リ ア 教 育	<p>幼児児童生徒の社会的自立の基盤となる力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでのキャリア教育に関する活動を整理し、「キャリア教育の学校目標」や「全体計画」を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の「全体計画」はほぼ完成し、全職員に配布した（9月）。 ○主な変容 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部から高等部の学年主任を中心に、学校全体でキャリア教育に関する活動を見直すことができた。これからようやく幼稚部と小学部を巻き込んだキャリア教育がスタートできる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部では「ふれあい発見推進事業」、中学部では「チャレンジ体験推進事業」、高等部では「就業体験」や「産業現場等における実習」を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・小学部、中学部では、それぞれの推進事業を実施した。 ・中学部のチャレンジ体験では、スーパーや幼稚園、福祉作業所など9箇所で行った。 ・高等部では、就業体験及び実習を実施し、いただいた評価をその後の指導に生かした。 ○主な変容 <ul style="list-style-type: none"> ・各部の取組を計画的に進めることができた。 ・「チャレンジ体験推進事業」では、体験を通して、働くことのイメージを育てたり、自分の夢や進路について考えたりすることができた。 ・高等部3年生については、全ての生徒が卒業後の進路先を決めることができた。 ・依頼状、礼状の作成では、時候の挨拶を入れた文章のひな形に慣れてきている。 ・実習先での挨拶や話し方、受け答えの仕方、敬語の使い方の難しさなど、コミュニケーション面の課題は理解できるが、改善しようと意識する生徒は3年生に多かった。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の具体的方策（保護者向けにキャリア教育の啓発活動を行う） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの啓発活動として、進路指導講話Ⅰを実施した。 ・幼稚部、小学部、中学部において、保護者向け説明会を実施した。 ・進路日より、キャリア新聞を適宜、発行した。 ○主な変容 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、福祉的就労を担当する職員を1名配置することで、より生徒一人一人に合ったキャリア教育ができ、保護者にも分かりやすく福祉的就労について説明することができた。 ・小・中学部では、高等部の生徒2人に職場実習や進路決定の流れについて話してもらったり、いくつかの視点から進路について説明したりして、保護者に高等部進学とその後のイメージをもってもらえることができた。 ・福祉的就労について、高等部と連携して情報を共有し、進路指導に生かしていくことができた。保護者の進路に対する意識向上に役立てることができた。 ・キャリア新聞を発行して、中学部生徒や全校の保護者にキャリア教育についての幅広い情報を知ってもらい、進路に関する活動やキャリア教育について考える機会をもってもらえるよう努めることができた。 	
	<p>○アンケートの結果（4段階の回答のうち、上位2段階の合計）</p> <p>児童生徒アンケート…90%、職員アンケート…74%、保護者アンケート…86%</p>		<p>達成の指標</p> <p>平均 83.3%</p>

③ 自 立 活 動	日本語力とコミュニケーション力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、小学部では「はつおんれんしゅう表」を使って、発音の状態をボイスレコーダーで録音する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚部、小学部の取組 ・毎年、二学期末に各学級の担任が実施している。 ・「はつおんれんしゅう表」は9段階用意されており、学年に応じた表を使用した。 ・担任が幼児児童の読む単語や文章を録音し、「はつおんれんしゅう表」に評価した。 ・録音を聞いて、正しく聞き取ることができた単音に○を記入し、違う音に聞こえた場合は、聞こえたままの音を記入した。 ○主な変容 ・自分の苦手な単音を理解してから録音に臨むと、口形を意識して発音しようとする姿が見られた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・中学部、高等部では、「私の主張」「青春メッセージ」の作文、発表態度、手話表現等の指導を行い、ビデオ録画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学部、高等部の取組 ・毎年、中学部では「私の主張」の発表を学級または学年で、高等部では「青春メッセージ」の発表を学部全体で実施している。 ・中学部、高等部ともに、発表原稿の作成にあたり、作文指導を行い、発音や手話表現、間の取り方など個人の課題に沿って発表の指導を行った。 ・発表では他者評価を行うとともに、録画したビデオを見て自己評価を行った。 ○主な変容 ・中学部の「私の主張」を通した指導では、改めて苦手な発音を見直したり、正しい日本語による文表現を確認したりすることができた。手話についても、文の内容と異なる表現をしていたことに気付いて、改めて確認し見直すことができた。 ・口話中心の生活をしている学年の生徒は、改めて手話表現が曖昧であると自覚することができた。 ・「私の主張」のテーマ（中2は「将来の夢」）として扱った課題について、生徒の考えを言語化し、明確にすることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・発音・発語の分析表を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体の取組 ・幼稚部、小学部用の「はつおんれんしゅう表」における「分析シート」の様式を作成した。 ・「分析シート」の様式を作成するにあたって、各部で何度も検討した。 ○主な変容 ・各部で検討を重ねることで、発音や日本語に関する職員の意識を高めることができた。 ・中学部、高等部では、ビデオ録画をしたものに対して、作成した「分析シート」の様式に合わせて評価するなど、職員の意識が高まってきている。 ・発音・発語の「分析シート」では、担任・副担任で協力して評価し、まとめている。 2月中に、生徒にフィードバックする予定である。
○アンケートの結果（4段階の回答のうち、上位2段階の合計）		達成の指標	
児童生徒アンケート…84%、職員アンケート…78%、保護者アンケート…82%		平均 81.3%	

<p>総合評価</p>	<p>本年度、重点目標として3項目を掲げ、全項目について、具体的方策を挙げ全校で取り組んだ。学校評価委員会では校長から学校評価の重点目標と評価方法についての具体的指示を受け、重点目標を達成するよう方策を立て校内の組織や各教員が活動を展開した。児童生徒、職員、保護者を対象にした三つのアンケートの結果と併せて、各項目における実際の取組を顧みて、以下の結果と課題を明らかにした。</p> <p><結果> 上記のように各項目において内容の濃い取組ができた。その成果として幼児児童生徒、保護者の声やアンケートの結果に反映されている。以上を鑑みて、本校では<u>今年度の各項目についておおむね達成できたと評価する。</u></p> <p><課題></p> <p>○心身の健康・・・食に関する授業を実施したが、年間一時間で子どもが変容するには限界がある。指導前後のつながりや継続した指導、保護者の協力が必要だと感じる。子どもたちが、興味をもって給食だよりも目を通すための工夫が必要である。連載記事だけをまとめてアピールすると、興味をもって読めるのではないか。 運動と食事の関係性については、まだ理解できていない生徒がほとんどである。発表や掲示だけでは、一時的なものとして、興味を示した一部の生徒にしか内容が伝わらない。今後は、体育科や部活動の顧問とも連携を図り、いろいろな角度から情報を発信して、より多くの生徒の意識向上を図っていけるとよい。運動強度や回数を設定し、体力の向上に努めたい。</p> <p>○キャリア教育・・・次年度はキャリア教育の手引きを有効活用できるように支援し、子どものキャリア意識を高めていきたい。具体的には幼稚部、小学部向けの進路説明会を、保護者だけでなく職員に対しても早い時期に実施していきたい。また、職員のさらなる活用と実践内容がキャリア教育にどう結びついているのかについて、深く認識できるような工夫を考えていく必要がある。 今年度、高等部についての福祉的就労の流れやノウハウが蓄積できたので、今後は、小学部や中学部の職員や保護者、子ども向けに発信し、見通しがもてるようにしたい。同時に進学についての流れも分かりやすくしていきたい。</p> <p>○自立活動・・・今年度は「分析シート」を作成したが、幼稚部・小学部では「分析シート」に結果を落とし込んで評価する段階までは進んでいない。来年度、実際に「分析シート」を利用して、職員の負担にならない程度に改良を進めていく。また、「分析シート」は子どもや保護者に提示し、どの音に気を付けたらよいかなど、話し合うための材料とする。よく使う言葉のイントネーションが違っていている生徒には、その都度修正を行っていくという職員の意識が必要である。</p>
-------------	--